



外観を南から見る。左官で仕上げた壁と戸袋板をアクセントにした外観。建物はL型配置とし、中庭を囲んで子世帯と親世帯が分かれている。

夫婦もいずれご両親と暮らす事を考えていたため、数年間近くのアパートに暮らし、ご両親と同じ地域で付かず離れずの暮らしをしていました。Kさんが家づくりを考えはじめたのは数年前、当社の相談会に参加していただき、熱心にお話を聞いていただいた事を今でも覚えています。まだいつになるか分からないけれど、自分たちの生活を見つめ、じっくりと準備をしていきたいと話していました。また、家づくりを行うまでの間、当社の主催する木工教室（こちらぼスクール）に何度も参加され、子供のおもちゃづくりから始まり、生活道具や大きな家具を製作するまでになりました。はじめは気軽な気持ちではじめた木工ですが、だんだんとのめり込み、木工の経験から木の良さや特徴を知り、家づくりにも生かしていきたいと話していました。木工教室の他にも見学会やイベントに何度も足を運んでいただき、家づくりの前から当社のスタッフや大工とも顔なじみの関係になっていました。様々な体験や木の家を見る中でイメージも膨らみ、また、ご両親や自身のイメージなどもみて、いよいよ二世帯住宅の計画がスタートしました。お互い考えはまとまっていたのでスムーズに進むかと思っていました。二世帯住宅となると、単世帯とは違い、やはり色々な考えも生まれ、水廻りや共有部分など、時間を掛けてじっくりと計画していきました。

ひとつの屋根の下で暮らす

完成現場報告

静岡市 / 『かさなりの家』

文・写真 / コロラボ 山崎健治

子世帯のダイニング。松の床板と漆喰の壁がやわらかな雰囲気をつくっている。コンパクトな空間だが、季節の良い時はデッキスペースを室内に取り込んで、開放感を楽しんでいる。



静岡市の新しい中心地として人気の東静岡エリア、駅の近くはマンションや様々な商業施設が建ち賑やかな場所ですが、駅から少し離れたKさんとご家族の暮らす地域はとて静かな場所。自然が多く残り、ゆったりとした雰囲気を感ずる住宅地です。この土地はご主人の実家で、建て替える前はご両親二人で暮らしていました。Kさんご



勾配天井が特徴の親世帯のリビングスペース。中庭に向けた掃き出し窓から光と風が入り込み、1日を通して心地良い空間。



玄関脇に設けた客間スペース。ぐるりと廻った廊下は広がりを生み、贅沢な縁側空間にも感じられる。畳は目積縁無し畳市松敷き。



広間とつながったデッキスペース。見晴らしがよく風の通るデッキは気分転換に最適。読書をしたりコーヒーを飲んだり、家族の憩いのスペースになっている。



子世帯の広間スペースを南から望む。明るく心地良い広間はみんなの集まる場所、あえてテレビは置かず、フリーのスペースをつかって多目的に利用している。

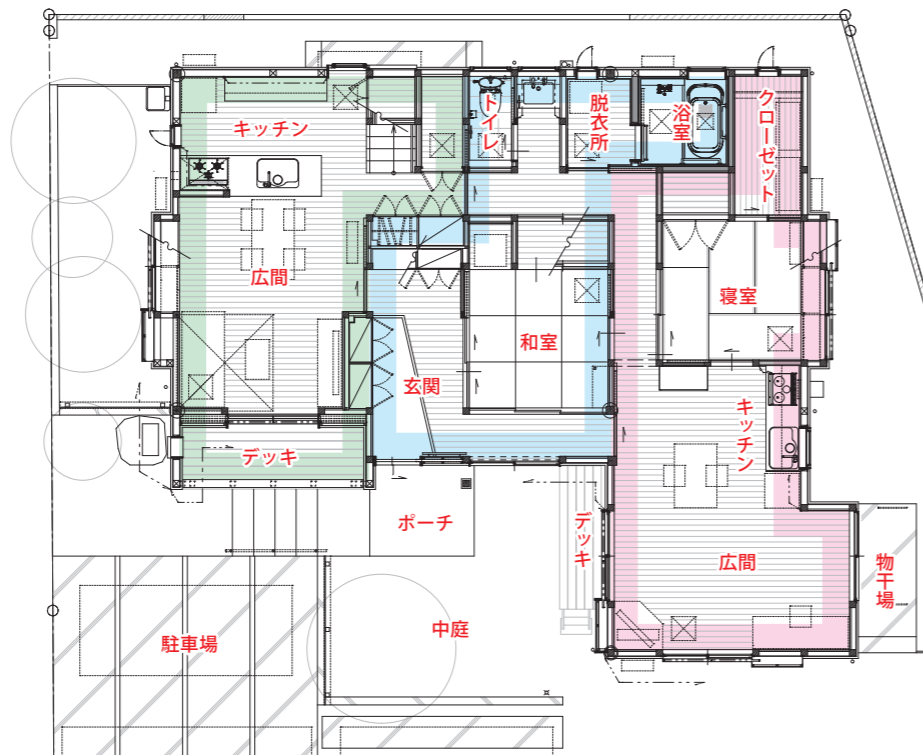
快適に暮らす 二世帯プラン

突然ですが、二世帯住宅と聞くとどんな家を思い浮かべますか？ 何となく1階が親世帯で2階が子世帯、玄関や水廻りが2つある家などを思い浮かべる人も多いと思います。ですが、一口で二世帯住宅といってもその形は実に様々、敷地の広さやコストによっても異なってきます。今回Kさん家族の形は、玄関、客間、浴室を共有し、リビング、キッチンも別々とした間取りとなりました。敷地にゆとりがあったので、1階に親世帯と子世帯のリビング+キッチン配置し、玄関と客間が共有スペースとなっているのが特徴です。木造住宅は上下階での音の伝わりを無くす事が難しく、プランの段階で検討しておく必要があります。今回のケースでは、親世帯の上階に部屋をつくらず平屋とすることで解決しています。家族の生活音は気にならないと思うかもしれませんが、親世帯と子世帯では生活時間も異なり、ちょっとした事がきっかけで生活が上手くいかないといった声を聞く事もあります。上下の関係だけでなく、今回の様に並列してリビングやキッチンがある場合、動線や視線も検討しておく事が重要だと思います。核家族と違いそれぞれのプライベートは重要で、お互いが干渉しない間取りの工夫が必要だと思います。また、家

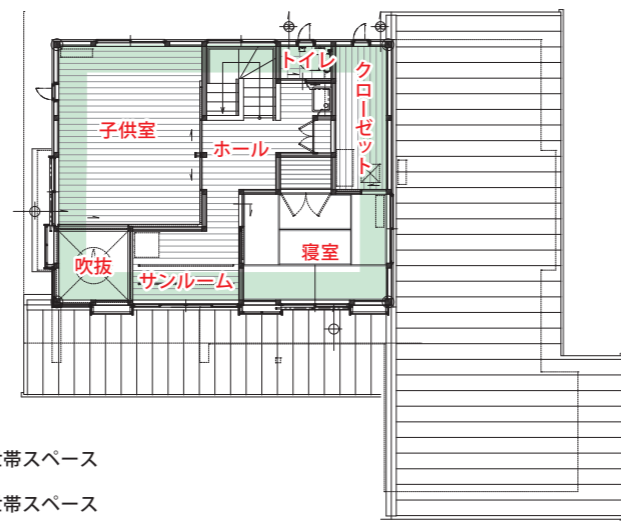
事動線や玄関までの動線、来客時の接客動線も考えておく必要があります。共有部分が多くなればなるほど、コンパクトで経済的な設計になりますが、逆に間取りや配置などの工夫が求められます。Kさん家族の場合、来客時やKさんの妹夫婦が帰省してきた時の事を考え、玄関脇に和室を設けました。主に家族の集まりや、帰省時の寝室として利用しているようですが、和室は普段利用する事が少ないので、建具を開けて玄関を広く見せる方法としても活用しています。また、親世帯のリビングまでの廊下を広縁として見せることで、落ち着いた雰囲気との空間が出来たと思います。和室からは庭が眺められ、それぞれの個の空間には無い凛とした空気が流れ二世帯の核となる空間になったように思います。二世帯住宅ではどうしても個室や収納が多くなるのも特徴です。それぞれの寝室や子供室に加え、クローゼットや物入れも二世帯分必要、ちよつとしたスペースでも無駄なく利用し、どちらの世帯も快適に暮らす工夫が成功の秘訣だと思います。

共有スペースを挟んで二世帯を配置したプラン

二世帯住宅には様々なプランが考えられます。Kさんの計画は玄関と和室の共有スペースを中央に配置し、左右に両世帯のスペースを配置したプランとしました。視線や動線、上下階の音の問題も考えて早い段階から検討し、どちらも気兼ねなく暮らせる間取りをつくりました。



1F敷地平面図



2F平面図

親世帯スペース
 子世帯スペース
 共有スペース

仕様内容

家族構成	家族5人
敷地面積	268.90㎡
建築面積	109.08㎡
延床面積	149.37㎡
構法	在来工法
屋根	ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼
外部建具	マサ土掻き落し仕上げ 木製オリジナル建具 ナラ、タモ(ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	杉本実張り 厚12mm
壁	青森ヒバPJ本実板張り 厚15mm 漆喰塗、青森ヒバPJ本実板張り、 クロス貼り
床	桧本実板 厚15mm・ 杉本実板 厚12mm
内部建具	木製オリジナル建具 葛布ガラス入框戸
キッチン	ステンレスヘアライン天板 オリジナルキッチン
洗面化粧台	TOTO：人工大理石天板 システムJオリジナル洗面化粧台
浴室	日比野化学工業：ハーフユニットバス 1坪タイプ
設計・施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成29年9月



それぞれの思いやりを形に
 二世帯住宅で必要な工夫はプランや動線だけでなく、個々の居心地や使い勝手も大切なポイントになってきます。特に共有部分は家族みんなが過ごしたり使ったりする場所なので、奇抜なデザインや素材とせず、使いやすく無理のない選択をしておくことが重要だと思えます。浴室や洗面、トイレなどは汚れやすい場所なのでお手入れのしやすい素材を選んだり、将来を考えて扉の開き方や手摺などの設置も検討しておく事が良いと思います。今回Kさん家族のケースでも、若世帯と親世帯の意見を合わせつつ、水廻りなどの設計をしていきました。設備品や素材の選択ではお互い遠慮する場面もありましたが、それぞれの思いやりを設計に生かして計画していきました。

Kさんのお宅は二世帯住宅という特徴の他、細部のこだわりや工夫もたくさんあります。両世帯共、寝室脇に設けたクローゼットは収納のしやすさを考えて縦長にしました。親世帯は元々持っていたタンスを縦に配置して向かいの壁面を上手に使い、子世帯は棚とパイプを使って収納力を確保しました。また、子世帯の二階には3帖のサンルームを設けて洗濯機を置きました。天気や時間に左右されずに干せ、取り込むタイミングも空いた時間に出来るのがgood。よく乾き、もはや無くてはならない場所にしているようです。

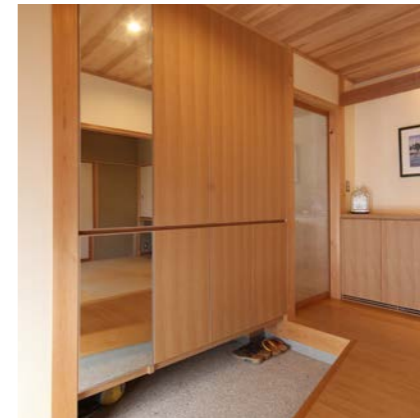
親世帯と子世帯、基本的にはみんなで話し合いの場を持って、1年以上の打合せを重ねてきました。様々な場面で意見を合わせていくことは難しいと思っていました。Kさんご家族は家づくりの前からすでにひとつの家族となり、それぞれが家族の事を思いやっていると強く感じました。打合せも進んだり立ち止まったり、時には後退する事もありましたが、家族みんなが前を向いて良い家をつくりたいと強く願っている姿があったからこそ、満足の行く家づくりが出来たと思います。今回の計画をさせていただく中で、家づくりは家族の形をつくるものだと改めて感じました。みんな仲良く、ひとつ屋根の下で楽しい暮らしを送ってもらいたいと思います。

こだわりや工夫をいっぱい詰め込んだ木の家暮らしと共に愛着が増していく

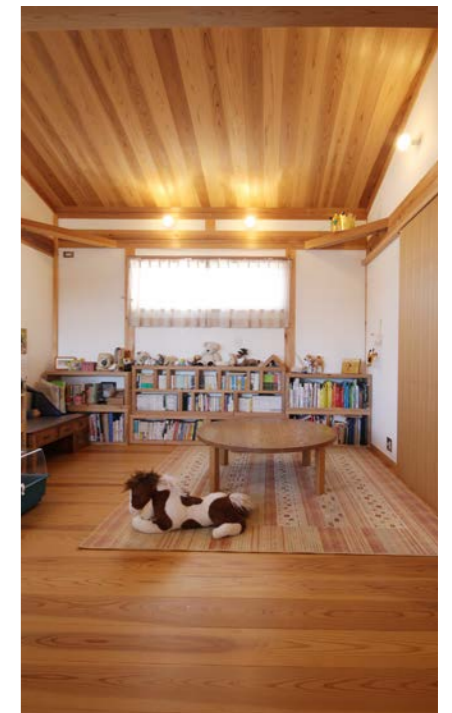
計画段階で細部までこだわった間取りや素材、木の家に住みながらアレンジを加え、益々愛情が詰まっていく。木工教室で学んだ技術やアイデアを使って家具や日用品をつくるのもお手のもの。



玄関収納の中には靴や傘、日曜大工の道具が収納されている。大きくつくったつもりだが、二世帯分の収納となると中身はいっぱい。



天井までいっぱいの玄関収納、壁面を利用してスッキリと納めている。扉に付けた鏡はお出かけ前のチェックの必需品。



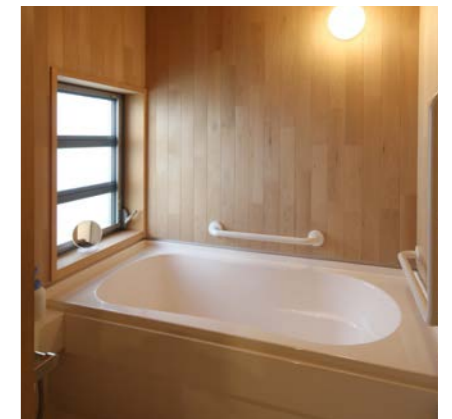
2階の子供室は、現在第二のリビングとしてみんなで使っている。木の端材を組んで積み上げた本棚はアイデアいっぱいアートにもなっている。



2階に設けたサンルーム。明るく風通しが良いので洗濯物がよく乾いて助かっていると褒めの言葉。細々した物を使いやすく得意の木工で製作。



1階の洗面化粧台とトイレ。トイレと洗面台は隣り合わせでつくる事を心がけている。使い勝手もよく来客時にも活躍。



ハーフバスを利用した木のお風呂。壁に手摺を取り付けて、万が一に備えている。

それぞれの思いやりを形に

二世帯住宅で必要な工夫はプランや動線だけでなく、個々の居心地や使い勝手も大切なポイントになってきます。特に共有部分は家族みんなが過ごしたり使ったりする場所なので、奇抜なデザインや素材とせず、使いやすく無理のない選択をしておくことが重要だと思えます。浴室や洗面、トイレなどは汚れやすい場所なのでお手入れのしやすい素材を選んだり、将来を考えて扉の開き方や手摺などの設置も検討しておく事が良いと思います。今回Kさん家族のケースでも、若世帯と親世帯の意見を合わせつつ、水廻りなどの設計をしていきました。設備品や素材の選択ではお互い遠慮する場面もありましたが、それぞれの思いやりを設計に生かして計画していきました。

Kさんのお宅は二世帯住宅という特徴の他、細部のこだわりや工夫もたくさんあります。両世帯共、寝室脇に設けたクローゼットは収納のしやすさを考えて縦長にしました。親世帯は元々持っていたタンスを縦に配置して向かいの壁面を上手に使い、子世帯は棚とパイプを使って収納力を確保しました。また、子世帯の二階には3帖のサンルームを設けて洗濯機を置きました。天気や時間に左右されずに干せ、取り込むタイミングも空いた時間に出来るのがgood。よく乾き、もはや無くてはならない場所にしているようです。